

伊丹ルーテル教会四旬節第4主日礼拝

2021年3月14日

前奏：

招きのことば：詩編 107 編 19-22 節

苦難の中から主に助けを求めて叫ぶと 主は彼らの苦しみに救いを与えられた。
主は御言葉を遣わして彼らを癒し 破滅から彼らを救い出された。
主に感謝せよ。主は慈しみ深く 人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。
感謝のいけにえをささげ 御業を語り伝え、喜び歌え。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつく
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに
礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいた
だきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。

あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：エペソの信徒への手紙 2章 1-10節

さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。わたしたちも皆、こういう者たちの中にいて、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛して下さり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです。事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備して下さった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 3章 14-21節

そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれぬ。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。」

讃美歌 316番

1 主よ、試み 受くるおり、祈りたまえ わがために。

心 恐れ まどうときも、愛のみ顔 向けたまえ。

**2 世の宝は 目をうばい、ほまれ 耳を まよわす日、
罪なき主の み苦しみを 示したまえ わが胸に。**

3 わずらわしき 世のわざに、やるせもなき 悲しみに、
なお ひそめる みいつくしみ 見させたまえ あやまたず。

**4 塵(ちり)より成る うつし身の 塵(ちり)に帰る いまわにも、
主よ、御顔を あおぎ見つ つゆかせたまえ 天家(あまつや)に。 アーメン**

説教：「世を愛された」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

四旬節の第4主日です。イエス・キリストが私たちのためにその身に負ってくださった苦しみを覚えます。

ヨハネによる福音書3章17節に「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」とありました。御子イエス様は世界の救いのために父なる神様によって世に遣わされた、ということです。そのように言われているのは私たちがよく誤解をしているからです。また生まれつきの罪深い自分中心な心では、聖書の語る神様のお姿を歪んでみてしまうからです。生まれながらの私たちは、どこかで神様のことを避けたいと思っています。罪を犯したアダムとイブが神様が近づく気配を感じてこわくなって岩の陰にかくれたと同様に、私たちもまた、神様が私たちを裁くのではないか、私は苦しむのではないか、と直感するからなのかもしれません。

それにはもっともらしい理由づけができます。神さまに頼る、というのは努力をやめた人ではないか、そこに成長はないのではないか。自分を信じて努力や精進しないで、神様を信じるといのは人生観が甘いのではないか。そんなことでは人間としての成長はないのではないか。

神さまに従い、神様にささげる、というのは正しいかもしれないけれど、つまらない人生になるのではないか。もっと自分のしたいことに正直になって、自分探しをして、自分の最も好きなことを生かして前進するという生き方の方が魅力的ではないか。

神さまのことをいつも考えるのはめんどうではないか。人々の間に生きていて、毎日たくさんの現実の課題に直面して手一杯なのに、それに加えて神様のこともおろそかにせずに考えていかなければならないのは負担が大きくなる。生まれながらの私たちにはこんな気持ちがあり

ますね。そして、ある意味では神様を大切にすることは重要なことだとわかってはいても、もうひとつそうするような気持ちが出てこないのです。

けれどもイエス様は人々を「裁くためではなく、救うために」来られた、と言われました。神様を大切にしない私たちを裁くためではなく、救うために来られたというのです。これを聞いたのはイエス様とお話をしていたニコデモという人でした。驚いたことでしょう。

ニコデモはイスラエルの指導者として、すでに尊敬される偉い人になっていました。律法を学び、努力して守っていました。人々にすごい人だと認められていました。昼間はたくさんの人と共に平和に暮らしていました。しかし、イエス様が神殿の境内で、神様にささげる牛や羊を売っている人や神様にささげるお金に両替している商人を追い出したことを知って、ニコデモはこの方と話してみたい、この方を知りたいという願いがこみあげてきてこの夜イエス様を訪ねたのでした。

イエス様とお話をしたいと思って訪ねてきたニコデモが属するパリサイ派の人とはどんな人のことでしょう。パリサイ派という人々とサドカイ派と言う人が聖書に登場します。それはイスラエルの歴史に関係しています。イスラエルの人々は少し前にそれまでの神さまに従わない頑固な心を捨てることをできなくて、神様に裁かれてバビロンという大きな強い国に滅ぼされて敵の国に連れていかれてしまいました。そのときイスラエルの人々は思いました。心を入れ替えよう。そしてしっかり神様を礼拝しよう、またしっかり律法を守ろう、と肝に銘じたのです。

礼拝を大切に人々はエルサレムに帰ることを許されたときに神殿を再建しました。そこで以前の中途半端な礼拝ではなく神様をしっかり礼拝しました。サドカイ派とよばれる人々が中心になりました。また、神様の律法を大切にしようとした人々は神様の戒めを研究して、自らと民とに当てはめて熱心に従っていこうとしました。パリサイ派とよばれる人々が中心になりました。ニコデモはこのパリサイ派の指導者だったのです。

ニコデモの訪問を受けて、イエス様は彼に、上から生まれ変わらなければ神の国を見ることはできない、と言われました。ニコデモは突然にものごとの中心課題を浮き彫りにするイエス様のことばに驚き、理解に苦しみました。上から生まれる、新しく生まれるとはどういうことだろう。それで、私にはもう一度お母さんのおなかに入って生まれてくるなんてできません、と答えています。

イエス様はニコデモに答えました。生まれながらのいのちではなくて神様のいのちをいただかなければならない、そしてわたしはそのために来た、とおっしゃったのです。つまり、いくら神様の教えや戒めをよく知って、それを行うように努力しても、自分中心なあなた自身が新しい、上からのいのちをいただくことがなければその努力には意味がない、と言われたのです。

水と霊によって生まれる洗礼によってあなたも聖霊によって上からのいのちをいただく、新しく生まれると言われたのです。

3章14節でイエス様は、モーセが荒野で蛇をあげたように、人の子もあげられる、と言われました。人の子というのは救い主のイエス様のことですが、イエス様が高くあげられるというのは、もちろんやがて十字架にかけられて苦しめ、また死なれることです。ニコデモのよく知っている旧約聖書の民数記21章4-9節というところに記されているイスラエルの民の出来事を参照しています。イエス様はニコデモが、あ、そういうことか、とわかるように、丁寧に話してくださっています。

かつてモーセに率いられてエジプトでの奴隷状態から解放されて脱出した大勢の民は約束の地を目指して荒れ野を進んでいました。しかし、民は過酷な毎日の続く長い旅に耐えきれなくなりました。そして、モーセにも、神様にも、不平を言います。苦しい経験をすると、なんでこんなところに導かれたのか、と絶望したり怒ったりしたのです。

神は罰として炎の蛇をイスラエルの人々のもとに送りこんだので、蛇に咬まれた人は命を落としました。民は神様に反抗した罪に気づき反省して、モーセにお願いしました。モーセは神様に言われて青銅で蛇を作り、それを旗竿に掲げました。そして、それを仰ぎ見なさい、と人々に言いました。蛇にかまれてもこの青銅の蛇を仰ぎ見た人は命を失いませんでした。イスラエルの歴史に残る有名なエピソードです。

イエス様は、旗竿の先に掲げられた青銅の蛇のように、ご自分は十字架にかけられると言われました。青銅の蛇を仰ぎ見ると命が助かるように十字架にかけられたイエス様を信じると上からの命、永遠の命を受けるといように解説されました。

ここでニコデモが知らされたのは、十字架のイエス様を仰ぎ見る、ということです。それはニコデモを「裁くためではなく、救うために」来られたイエス様を仰ぎ見る、ということです。そして私たちにも今朝、十字架で私たちのために苦しみ、死んでくださったイエス様を仰ぎ見るようにと聖書はあなたに語っています。神様があなたを裁くためではなく、救うために遣わしてくださったイエス様を見るのです。

悔い改めとは神様の方に向き直すことです。そしてあなたのために来てくださったイエス様に何度もお出会いすることです。

神さまにゆだねて歩むのは、ひ弱に見えるかもしれませんが。自分の努力を捨てた甘い姿勢に見えるかもしれませんが。しかし、悔い改めて神様にゆだねて歩むことは、決して人生に対して弱気になることではありません。もちろん、イエス様に出会うと、自分の姿が見せられます。動

機は結局自己中心で、自分の頑張る力も考える力も不完全で、神様の前には罪びとであることを知らされます。しかしそれは自分から何もしなくなるということではありません。神様にゆだねて歩むというのは、そのように自分には何もできないことを知ったうえで、無力な自分の力に頼ることができない、自分の力は信用できないことを知って、神様、わたしはできないけど、あなたが遣わしてくださったイエス様を信じてやってみます、ということです。

上からのいのちをいただいて、新しい内なるわたしがきよめられ、強められて、自分の力ではなく上からの力でいのちあふれて力強く歩むのです。裁くためにではなく、救うために来られたイエス様であって、生かされます。

神さまに従うのはつまらない人生に見えるかもしれませんが。けれども私たちの生涯は、短期的、長期的に自分の損得をいつも気にして不純に生きるのではなく、神様があなたに与えてくださっている才能や人のつながりや時間を最大限に鍛え、生かして、神様と人々の役に立って生きるので、チャレンジングなどきどきする、わくわくする毎日です。また、イエス様を信じる信仰の仲間と祈り合い支えあって歩むすばらしい交わりが天国まで続き、そして天国でも続きます。その人には神様に生かされているという謙遜さがあります。人々の必要にどこまでも耳を傾けていく柔らかさがあります。同時に神様にいかされている威厳と深い確信があります。

忙しさの中で、真実を見ないで、神様の前に生かされていることから目を背けるのをやめましょう。毎日が忙しくたくさんのかたをしなければならぬからこそ、ひととき静まって神様のみ言葉に聞きましょう。それは忙しさで心失うことなく、また、何か自分ではない他人が生きているというような感覚ではなく、むしろあなたが神様の前で生かされ、人々の間に遣わされていることに立ち返るためです。

ニコデモは忙しい中、夜にイエス様を訪ねました。これが神様の方に方向を変える悔い改めです。そこにイエス様が語ってくださいます。イエス様は罪びとであるあなたの真実の姿を見せてくださいます。そして、あなたを裁くためではなく、ご自分があなたのかわりに苦しまれ死なれた十字架のお姿をお示しくくださいます。主イエス様を仰ぎ見る者は救われるのです。

すばらしい神さまを信じ、神様があなたのために遣わしてくださったイエス様を信じて、イエス様とひとつにされる洗礼の恵みによって水と霊とから生まれさせて下さることを覚えましょう。罪赦され、新しい上からのいのちをいただいて、今週も神様と人々に謙遜に、そして威厳をもってお仕えしていきましょう。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 338 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主よ、おわりまで 仕えまつらん、みそば 離れず おらせたまえ、
世のたたかいは 激しくとも、御旗(みはた)のもとに おらせたまえ。
- 2 うき世のさかえ 目をまどわし、いざないの声 耳にみちて、
こころむるもの 内外(うちと)にあり、主よ、わが盾と ならせたまえ。
- 3 静かにきよき み声をもて 名利(めいり)のあらし しずめたまえ、
心にさわぐ 波はなぎて わが主のみむね さやに写さん。
- 4 主よ、今ここに ちかいを立て、しもべとなりて 仕えまつる。
世にある限り この心を 常にかかわらず もたせたまえ。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊(みたま)の おおみ神に ときわにたえせず 御栄えあれ 御栄えあれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏